

報道関係各位

子どもの医療費 ～患者負担が「無料」でも「節約」できる！？～

岐阜県では、全市町村において義務教育終了（15歳）まで医療費の患者負担が原則無料であり、子育て世代にとっては非常に安心できる制度となっています。

一方、全国健康保険協会（協会けんぽ）の医療費データを分析すると、子どもの医療費が他県と比べて高くなっています。

新型コロナウイルスが経済活動に及ぼす影響が見通せず、医療保険財政の悪化が懸念されています。県民の皆様には、より一層、医療費の節約をお願いします。

■岐阜県は子どもの医療費が高い！

全国健康保険協会では、平成30年度の医療費について全国的な分析を行いました。それによると、岐阜支部では5～14歳の1人あたり医療費が高く、全体への影響度が高いことが分かります。（参考資料1）

原因は1つではありませんが、子どもに対する充実した医療費助成制度により、患者負担が「無料」であることが挙げられます。

では、「無料」の医療費はどこが負担しているのでしょうか？実は、かかった医療費の7割（小学校就学前は8割）は、加入している医療保険制度から支払われ、本来なら患者負担となる残りの3割（2割）は、県や市町村から助成されています。

子ども医療費助成のしくみ

*医療費総額が10,000円（自己負担割合3割）のケース

	7割	3割	患者負担額
通常の場合	医療保険制度が負担 7,000円 (協会けんぽなど)	自己負担 3,000円	3,000円
子ども医療費 助成の場合	医療保険制度が負担 7,000円 (協会けんぽなど)	税負担 3,000円	0円

我が国の人口構造を考えると、今後医療保険の財政がさらに厳しくなるのは確実です。現在は医療費（患者負担）が無料の子どもたちも、将来は医療保険を支える担い手となりますので、今、できる方法での節約行動をお願いします。

子どもの医療費は、「無料」だけ「節約」はできます。2つの方法をご紹介します。

■節約行動① 時間外や休日の受診はなるべく控えましょう！

岐阜支部では、診療時間外の受診（再診）が多く、調査では全国 1 位となっています。なかでも、15 歳以下の受診が最も多くなっております。（参考資料 2）

急な病気やケガの場合はやむをえませんが、定期的な受診は診療時間内にしていただき、医療費を節約していただきますようお願いします。

■節約行動② ジェネリック医薬品をもっと使って！

岐阜支部の令和 2 年 3 月のジェネリック医薬品使用割合は 77.0%（全国平均 78.7%）にとどまっています。

中でも 5～14 歳の使用割合は、5～9 歳が 71.5%、10～14 歳が 71.2%と低いことが分かります。（参考資料 3）

たとえ医療費（患者負担）が無料でも、ジェネリック医薬品を使用することで医療保険財政や税負担軽減に寄与していただけますので、ご協力をよろしくお願いします。

□ジェネリック医薬品に切り替えるメリット

ジェネリック医薬品は新薬の特許期間後に製造されるため、価格が安く設定されています。また、錠剤がコーティングされ、苦みが抑えられたものや、錠剤を小さくしたものなど子どもが飲みやすいよう工夫されているものもあります。

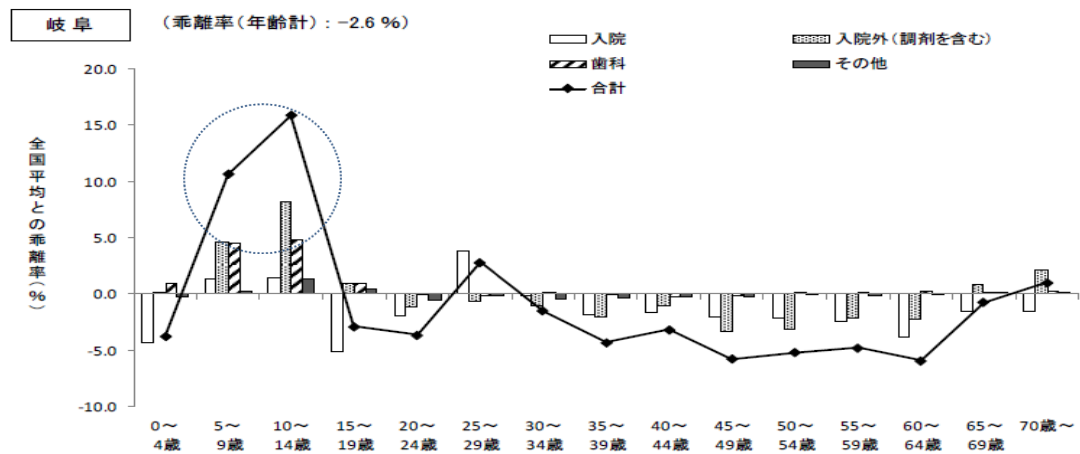
■参考資料 1 5 - 14 歳 1 人あたり医療費の特徴

岐阜支部の年齢階級別加入者 1 人あたり医療費の全国平均との乖離率は、5 歳～9 歳が 10.7%、10 歳～14 歳が 15.9%でした。他の年齢階級と比べて 5 歳～14 歳の全国平均との乖離率が突出しています。特に、「入院外」、「歯科」が高くなっています。(資料①)

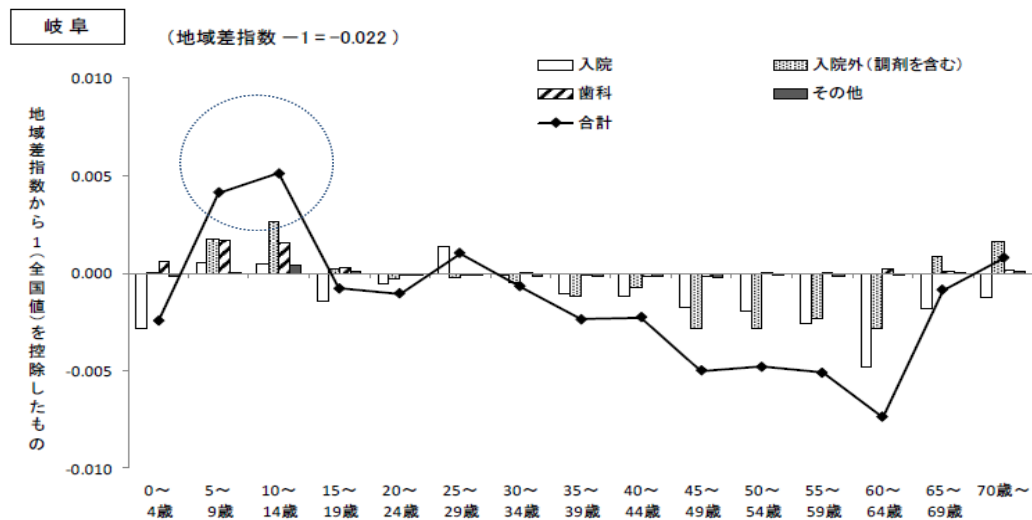
年齢階級ごとの加入者 1 人あたり医療費に係る岐阜支部と全国平均との差は 5 歳～9 歳が 0.004、10 歳～14 歳が 0.005 でした。(資料②) 各年齢階級のうち、5 歳～9 歳、10 歳～14 歳の影響度が最も高くなっています。

岐阜支部では全国平均と比べ、5～14 歳の 1 人あたり医療費が高く、医療費への影響度も高いことが分かります。

資料①



資料②

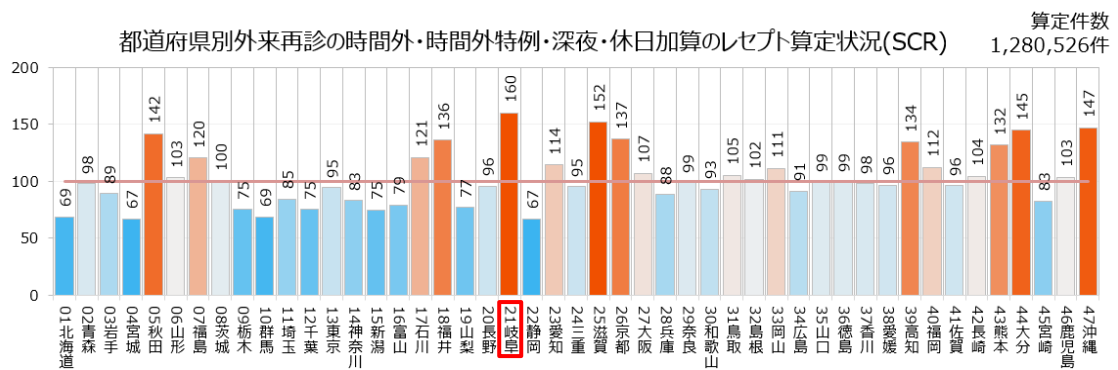


■参考資料 2 診療時間外受診（再診）の状況

平成 28 年度標準化レセプト出現比¹（以後 SCR とする）によると、岐阜県は診療時間外受診（外来再診）が最も多く、全国 1 位となっています。（資料③）

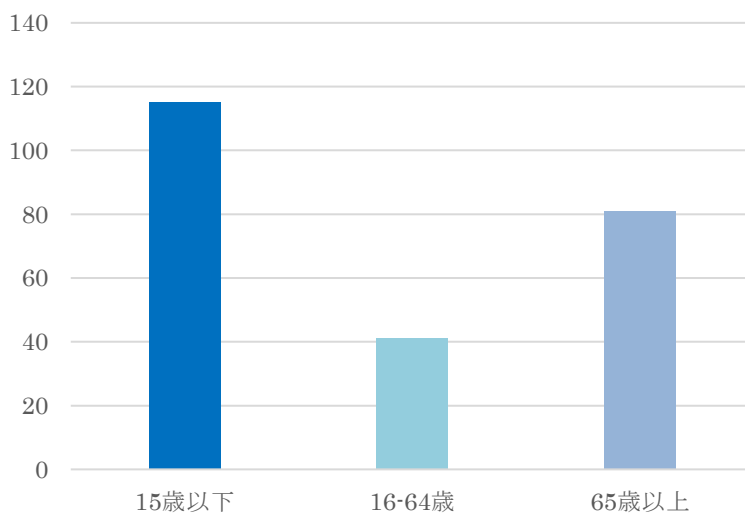
また、被扶養者の年齢区分別の受診率（1,000 人当たりレセプト件数）を比べると、15 歳以下の受診率が特に高いことが分かります。（資料④）

資料③



資料④

岐阜支部における被扶養者の年齢区分別受診率

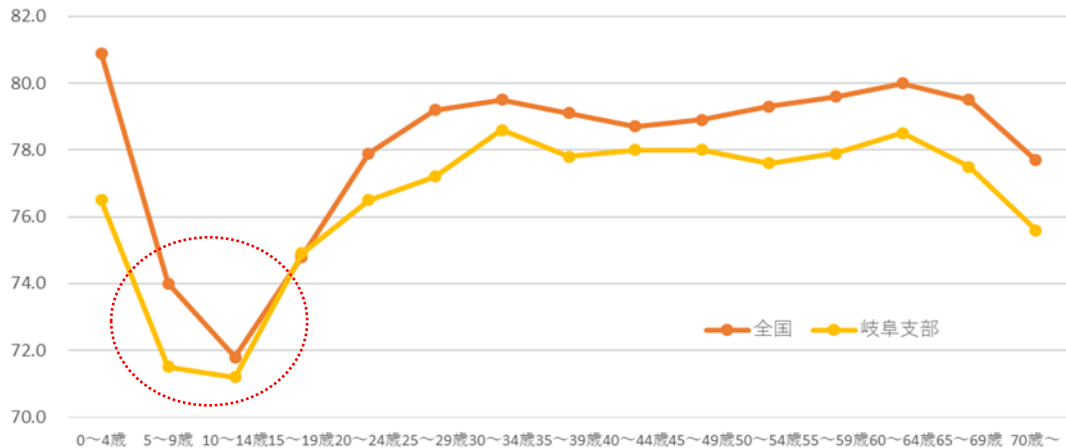


¹ ある診療行為のレセプトが、全国の性年齢階級別の出現率と同じ割合でその地域に出現するとして期待数を計算し、実際のレセプト件数との比をレセプトの出現比として指数化したもの

■参考資料 3 5-14歳のジェネリック医薬品使用割合

資料⑤

ジェネリック医薬品使用状況 令和2年3月



現在、国では令和2年9月時点でのジェネリック医薬品使用割合目標を80%としていますが、岐阜支部の使用割合は77.0%のため、依然として国の目標に届かない状況が続いています。

(参考) 協会けんぽは、健康保険法に基づいて設立され、国民の3.1人に1人、4,000万人を超える加入者と、約230万の事業所からなる日本最大の公的医療保険の保険者であり、主に中小企業で働く方とその家族の皆さまが加入しています。岐阜支部には岐阜県内約3万6,000事業所、約76万人の方が加入しています。(令和2年3月時点)

【照会先】

全国健康保険協会（協会けんぽ）岐阜支部

担当：企画総務グループ 川本

〒500-8667 岐阜市橋本町2-8 濃飛ニッセイビル14階

TEL：058-255-5155（自動音声案内で⑤をお選びください）

FAX：058-255-5165